



アイスランド共和国ヨハネソン大統領から感謝の握手を受ける渡邊利三氏

北歐アイスランドと日本の交流に大きく貢献したことで、2019年にアイスランド・ヨハネソン大統領から当財団の名誉会長である渡邊利三氏に、最高の榮譽である「ファルコン勲章」が授与されました。

渡邊会長は、12年前に当時のアイスランド首相であり、学生時代の留学先（ブランダイス大学）のルームメイトであったゲイル・ホルデ氏と話し合い、日本とアイスランドの交換留学を目的とした奨学金制度「ワタナベ・トラスト・ファンド」を設立しました。現在までに100名を越える留学生を支援し、日本とアイスランドの学術協力の促進に多大な貢献をされた功績が高く評価されました。

受賞のコメント

2019年2月在アイスランド特命全権大使北川靖彦氏より、10年に亘り日本とアイスランドの関係強化に貢献したことに報い、同国大統領が最高榮譽であるファルコン勲章を授与することが決定したとのメールが届き、大変驚きました。2008年9月に「渡邊トラストファンド」という交換留学生プログラムをアイスランド国立大学に創設以来、10回目の奨学金、研究助成金授与式が2019年5月大学講堂で開催され、その後、レイキャビック郊外にある大統領官邸にて叙勲の式典と晩餐会が執り行われました。

何より嬉しかったのは学長をはじめとする関係者と歴代の駐日アイスランド大使たちが参加してくれたことでした。ただ一つ残念なことは私がアイスランドを訪問する時、高齢にも関わらずいつも早朝空港まで迎えに来てくれ、興味深いところへ案内してくれた初代駐日大使シグフソン氏が一年前に急逝され出席できなかったことです。私がなぜこのように親切に面倒を見てくれるのかと彼に尋ねた時日本で「おもてなしの心」を学んだと言われ感心したことがありました。

晩餐会ではヨハネソン大統領とサッカーの話題で盛り上がりました。日本とアイスランド両国が強いサッカーチームを持ち、両チームが2018年ワールドカップに出場しました。ワールドカップ史上世界最小国からの出場は世界を驚かせました。また、大統領は天皇陛下から即位礼正殿の儀に招かれていることを嬉しそうに話していました。数か月後の2019年10月ヨハネソン大統領は日本を初訪問し天皇即位式典に出席し、翌日安倍前首相と会談されています。

今年2020年5月に予定されていた11回目の奨学金、研究助成金授与式はコロナパンデミックのため中止になりましたが、日本から11名、アイスランドから17名、創設以来最高の28名の学部生、大学院生、研究者が両国へ留学することになりました。初年度3名から始まった交換留学生プログラムが過去11年



アイスランド国立大学学長、歴代駐日アイスランド大使および関係者の皆様

間で合計110名を超える留学生を支援できるようになり大変嬉しく思っております。なおこのプログラムを共に創った私のかつてのルームメイト、ゲイル・ホルデは現在北歐8か国を代表する世界銀行理事としてワシントンDCで活躍しています。

北海道と四国を合わせた面積を持つアイスランドは「島国」で「火山国」という日本と共通点がありますが、たくさんの世界初（女性大統領、レスビアン首相など）とたくさんの世界ランキング1位（再生エネルギー利用、長寿、男女平等、女性社会進出、露天風呂の大きさなど）を誇り世界を先取りしている先進国で日本が学ぶべきことが山ほどあります。



アイスランド大統領官邸にて

アイスランド首相になった私のルームメイト



日本アイスランド協会会報「オーロラ」の記事(2015年11月)

私は学生時代いくつかの留学試験失敗を経験し、44年前の1971年春、ウィーン国際全額奨学生として慶應義塾大学より米国マサチューセッツ州ブランドイス大学に編入学できることになりました。大学紛争で荒れる日本を後に、夢と希望に胸を膨らませアメリカに渡りました。MIT(マサチューセッツ工科大学)における一ヶ月の語学研修が終わり、美しく広大な大学キャンパスでの寮生活が始まりました。

私のルームメイトはアイスランドという人口20万人(現在は32万人)の小国からの留学生でした。彼の名前はゲイル・ホルデ。長身細身で金髪ショートカットの真面目そうな好青年。(今はかなり太め!)当時は長髪ヒッピー文化が全盛の時代でした。私が22歳で彼は20歳。強いアイスランド語訛りの英語でなかなか理解できませんでしたが、互いに自分や母国について熱

心に語り合いました。共に父親を小さい時に亡くしたなど共通点がいくつかあり意気投合しました。彼は大学で経済学を専攻し、経済学者を目指すというはつきりとした目標がありました。

その後、世界的な経済危機が起り、一年遅れで日本とアイスランド間の交換留学が始まりました。毎年留学生数は着実に増え続け、今年は両国から合計10名の交換留学生を募集中です。両国の大使館も大変協力的でこの交換留学プログラムを公告してくれています。日本の若者が内向き思考で海外留学生が減る中、アイスランド国立大学では日本語学科の学生が多く、日本で学びたい学生がたくさんいます。私の夢はこの奨学金でもっともっと多くの学生、研究者達が互いの国で学ぶことです。若者達よ、海外で学び、見識を深めよ!

その後、世界的な経済危機が起り、一年遅れで日本とアイスランド間の交換留学が始まりました。毎年留学生数は着実に増え続け、今年は両国から合計10名の交換留学生を募集中です。両国の大使館も大変協力的でこの交換留学プログラムを公告してくれています。日本の若者が内向き思考で海外留学生が減る中、アイスランド国立大学では日本語学科の学生が多く、日本で学びたい学生がたくさんいます。私の夢はこの奨学金でもっともっと多くの学生、研究者達が互いの国で学ぶことです。若者達よ、海外で学び、見識を深めよ!

奨学金設立「世界知って」



2019年全国紙、地方紙に掲載された共同通信社記事「時の人」

北欧のアイスランドと日本の交流に貢献したことが評価され、5月に大統領から最高の栄誉である「ファルコン勲章」を授与された。約10年前に、アイスランド大学に両国の留学生を支援する奨学金制度「ワタナベ・トラスト・フアンド」を設立。「受章は全く予想外だが、うれしい」と喜ぶ。

米軍基地の近くで育ち、豊かな米国文化に憧れた。何度目かの挑戦で奨学金制度に合格し、米マサチューセッツ州のブランドイス大に留学。寮で相部屋となったのが後のアイスランド首相、ゲイル・ホルデ氏だった。

最初の印象は「そんな国あったんだ。」だが、火山国で温泉好きなど日本とも共通点が多い。勉強家の同氏と意気投合し、スポーツを共に楽しむなど親しくなった。

日本人は自分だけ。アメリカや東南アジア出身の学生が多く、米国人も含め皆が仲良く「多様性がある」と感動した。

その後は起業し経営に集中していたが、大学時代の奨学金の会合で創設者が「仕事の成果より奨学生を送り出す喜びが大き」と語ったことが頭から離れなかった。ホルデ氏に再会し、奨学金設立を相談。500万ドルを投じた奨学金を活用し、2010年から10年間で学生や研究者計90人が両国を行き来した。

学生に「留学は奨学金のおかげ」と感謝され、実現まで苦労した過去を振り返り「立ち上げてよかった」と思う。最近、留学志望の学生が減り歯がゆさを感じる。「さまざまな人が活躍する広い外の世界を知ってほしい」。

プロフィール:

慶應義塾大学在学中、松下幸之助氏の財政的支援とウィーン国際奨学金プログラムから全額奨学金を受け、米国マサチューセッツ州ブランドイス大学に編入。ブランドイス大学政治学学位取得後、帰国し、外資系コンサルタント会社に就職。1975年、26歳で独立起業して教育事業、輸入販売事業、コンサルティング事業に従事する。1989年、(株) NIKKEN の米国市場を開拓し、その後、世界38か国に進出。引退後、2008年より欧米で教育財団事業に取り組み、志ある若者たちの海外留学支援をしている。最終学歴: カリフォルニア州ペーパーダイナ大学院MBA経営管理修士号。

公益財団法人

渡邊財団

名誉会長 渡邊 利三